

（仮称）さいたまスポーツシュール推進施設整備等事業に関する サウンディング型市場調査 結果概要

さいたま市スポーツ文化局
スポーツ部スポーツ政策室

1. 調査目的

さいたま市では、「スポーツ人材の育成」、「持続可能なスポーツ環境の整備」及び「スポーツビジネス・スポーツ産業の創出・活性化」を目的とする「さいたまスポーツシュール」の取組を行っています。当該事業は、市内に集積するスポーツ施設群を中心に、市内の宿泊・飲食・研修施設等のネットワーク化によって、さいたま市全体を「ネットワーク型スポーツシュール」とすることで、スポーツを「する場」、「学ぶ場」を確保するものです。そのネットワークの中心の施設として、「市民が生涯にわたってスポーツを楽しむことを支え、トップアスリートを支えるための知の集積」や、「あらゆるスポーツを支え、スポーツによる国内外の対流・交流を加速」を目的とする「（仮称）さいたまスポーツシュール推進施設」の整備を計画し、令和5年7月に「（仮称）さいたまスポーツシュール推進施設の方向性」を取りまとめました。

本調査は、「（仮称）さいたまスポーツシュール推進施設の方向性」について、民間事業者の皆様のご意見等を聴取し、可能な限り民間活力を導入した施設の整備等を進めていくため、最適な事業手法の選定や整備事業者の公募条件・内容等を具体化することを目的に実施しました。

2. 調査スケジュール

実施要領の公表	令和6年8月30日（金）
サウンディング参加申込期限	令和6年9月6日（金）午後5時
アンケートシート回答期限	令和6年9月11日（水）午後5時
対話の実施	令和6年9月9日（月）～9月17日（火）

3. 参加事業者

申込を受けた8者と個別対話（WEB会議形式）を行いました。実施要領に記載の通り参加事業者については公表しません。

4. サウンディング結果概要

事業者との個別対話の結果、以下の意向を把握しました。

【参画意向について】

- ・ 本事業への参画意向について、6者が「参画に興味・関心がある」または「条件次第では興味・関心がある」と回答。

【事業スキームについて】

事業手法

- ・ PFI 事業として参画するには事業規模が小さく、SPC 設立や民間資金調達が必要となる DB+0、DBO、DBM+0 が望ましい。
- ・ 一方で、DB+0 は施設整備への維持管理企業の意向反映、DBO・DBM+0 は運営企業（第三者）とのリスク分担の構築という点で課題もある。

事業期間・事業範囲

- ・ 設計・建設期間は、運営企業（第三者）の意見を設計に反映する、計画地において地盤対策等を行う必要性が生じる可能性を考慮し、余裕を持った期間設定が必要である。
- ・ 事業範囲については現状の内容で概ね問題ない。
- ・ 什器・備品の調達設置については、運営業務と密接に関わるため、第三者の意見を踏まえ、市で別途実施した方が良い。

リスク分担

- ・ 建設費、維持管理費ともに、事業契約書等において、物価改定条件を適切に設定する必要がある。

【その他】

導入機能

- ・ ハード機能では、アスリートの疲労回復、市民の健康増進、アスリートと市民の交流に繋がる機能があると良い。
- ・ 宿泊機能の必要性については、改めて精査が必要である。
- ・ ソフト機能では、スポーツ人材の育成、スポーツビジネスに関する企業間のマッチング支援、データ×予防医学による運動プログラム、さいたま市立病院との連携等の機能があると良い。

既存スポーツ施設群との連携

- ・ 推進施設と既存スポーツ施設群を繋ぐ移動手段があると良い。
- ・ 埼玉県が整備を検討している「埼玉県スポーツ科学拠点」と推進施設との棲み分けに留意が必要である。

以上